

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年1月6日～2014年1月12日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年1月15日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

▼アブハジアおよび南オセチアに対するロシアの経済援助(11日)

・メドヴェージェフ首相の発表によれば、2014年から2016年までの間にロシアはアブハジアおよび南オセチアに対して毎年それぞれ10億ルーブルの経済援助を行なう。経済援助は露建設省を通じて行なわれる。

2. 外 政

▼フランスがグルジアを「安全国」のリストに加える(8日)

・フランス難民・無国籍者保護局は、アルバニアやコソボなどとともグルジアを、自由・民主主義・法治・人権保護などが保証されている「安全国」のリストに加えることを決定。「安全国」からフランスへの政治亡命を申請する場合、審査が完了するまで渡航できない。

3. 内 政

▼カルダヴァ内務省サメグレロ地方元副支部長に対する新たな容疑(9日)

・グルジア政府の要請により既にインターポールに指名手配されているカルダヴァ内務省サメグレロ地方元副支部長に対し、2011年4月に拘束されていたエルダル・コバリア氏を拷問の末に死なせたとする新たな容疑がかけられた。検察によれば、「コ」氏は2010年秋にトビリシおよびサメグレロ地方で連続して起きた爆発に関する容疑を認めるよう強要されていた。

▼2013年の犯罪件数・検挙率(9日)

・内務省の発表によれば、2013年の国内の犯罪件数は28,970件(前年比25.7%減)。そのうち犯人が検挙されたのは17,339件(検挙率59.9%)。

・首都トビリシでの犯罪件数は14,033件(前年比15.2%減)、うち6,494件で犯人が検挙された(検挙率46.3%)。

▼国境管理に係る省庁間委員会の設置(10日)

・ガリバシヴィリ首相が国境管理に係る省庁間委員会を設置。委員長はジャンネリゼ国家安全保障・危機管理委員会(首相の諮問機関)委員長。メンバーはイメルリシヴィリ国家安全保障会議書記、ガメザルダシヴィリ国境警察長、タブアシヴィリ財務次官、バラミゼ法務次官、ゲゲチコリ国防次官、ベルチャシヴィリ外務次官、ゴメラウリ内務次官。5月1日までに政府に新たな国境管理戦略を提出する。

4. 経 済

▼2013年の入国者数(6日)

・内務省によれば、2013年の入国者数は5,365,356人で前年比21.16%増。うち200万人強が「旅行者」と分類される24時間以上の滞在者。「旅行者」の割合は2010年には半分強であったが、年々低下している。

・国籍別では多い順にトルコ(159万人、前年比3.8%増)。アルメニア(128万人、同39.4%増)、アゼルバイジャン(107万人、同15%増)、ロシア(765,458人、同49%増)。ほかに、ウクライナ人入国者が126,300人で前年比64.8%増。EU諸国からの入国者は206,999人で前年比21.9%増。
・7月に査証なしの入国を停止したイラン人は78,633人で前年比12.3%減。

▼2013年中に支払われた老齢年金(8日)

・社会保障局によれば、2013年中に老齢年金として国庫から1,094,725,509ラリの歳出があった。2013年12月の年金受給者は686,675人。

・2014年9月から年金額は150ラリに増額される予定。

▼2014年のインフラ整備計画(9日)

・ナルマニア・インフラ・地方発展大臣が2014年の国内のインフラ整備計画を発表。優先的な事業として道路の建設、水道整備などを挙げた。全ての計画は春から始められ、国庫から135百万ラリが支出される。

5. その他

▼イリア2世グルジア正教会総主教の降誕祭のメッセージ(7日)

・トビリシのサメバ大聖堂にて降誕祭の礼拝の前、6日深夜にイリア2世のメッセージが読み上げられた。

・メッセージのなかで、教会は代理母、人工受精および体外受精に反対であるとして、「代理母から生まれた子を育てる家族が幸せになれるようか」などと述べられたことについて、ナヌアシヴィリ人権保護官は、「これらの手段によって子を得た人々を傷つけることのないよう、繊細な問題について教会はより慎重にならねばならない」との声明を発表。セルゲエンコ労働・保健・社会保障大臣も、「総主教に助言した専門家はより総合的な分析をする必要があった」と発言。

・8日、総主教府の前で、教会の立場を批判する人々のデモがあり、教会の立場を支持する人々との間で小競り合いになった。警察は4名を拘束。

▼国会のウェブサイトが再び攻撃される(12日)

・昨年12月31日に続き、国会のウェブサイトが再び攻撃され、国会スタッフによればファイルシステムが全て破壊された。翌日には復旧。